



キューバと中国で見たこと、考えたこと

鈴木 隆 はるな生活協同組合理事長
高崎中央病院小児科専門医

今回は個人旅行で北京に行って感じたことと、その前に行ったキューバとの比較で考えたことを書いてみます。

東京の中に京都があって大阪の人が住んでいる…

北京はとても大きい街で3日くらいしか滞在しなかったので全貌はわかりませんでした。

観光は正味2日間だったので、見て回ったのは代表的な観光地の万里の長城、天壇、紫禁城と街中での食事やお店巡りでした。北京の印象をひとことで言うと「東京の中に京都があって大阪の人が住んでいる」という感じですか。なんか独断と偏見の発言のようですが、巨大な近代都心の中に昔の街並み、景観保存地区があり、町の人は商売熱心で賑やかで活気があるという事を言いたかったのです。北京大学に留学中の人にもこの言葉は受けていて自分も使っていていいですかと言われました。

国を長く維持するのに大事なものは

紫禁城や万里の長城はとにかくバカでかいというのが結論です。どれだけの資源(時間、材料、労働力)を費やしたのか気が遠くなるスケールでした。当時のその国(政権)の力が想像できます。(大きすぎて想像しきれないけど?)

そこで考えたのは『これだけのバカでかいものを作ったこの国家は結局どうなったの?』という事でした。明は滅んで清に変わり、清



紫禁城城門の一つ

万里の長城



も滅んで中華民国に政権交代したわけです。結果としてはこのバカでかい建造物は国を維持するのに役にはたたなかったのです。国(政権)を長く維持するのに大事なものは何だろう? 巨大な財力や国民を従わせる強い権力、外敵を防ぐ長大な防壁があっても滅ぶときはあまり役に立たなかったとしか思えませんでした。

キューバの社会制度と比べてみると

北京の街を歩きながら、その少し前に行ったキューバと比べていました。キューバは今や数少なくなった社会主義の国です。街の様子は、道路は舗装がはがれて凸凹、家は区域により一戸建ての所とアパートのところがあります。アパートはこんな感じ、古い建物の



ベランダに洗濯物がほしてあって、まあリッチとは言えないですね。

しかし街に行く人はのんびりしていて明るく、みんなニコニコして愛想が良かったです。

ガイドの説明ではこの住まいは全部国から支給されているとのことでした。

初めて行ったネパールでは空港を出ると子

どもたちが争って荷物を運ぼうと集まってきましたが、キューバの子どもたちは制服を着て学校に行っていました。

キューバは教育と医療はすべて無料です。そのレベルも先進国に匹敵する（制度としては日本より優れている）高い水準です。小学校の1クラスは日本よりずっと少ない20人、中学は15人と聞いています。どんなへき地でも生徒が一人でもいれば学校があるとのことでした。

上級の学校に進むときは生徒の資質に合わせて、さまざまなコースがあり体育や芸術の学校も充実しています。

街を行くと所々の道端に人が集まっているところがありました。そこはヒッチハイクをする場所で、公用車を運転する人は席が空いていて、行き先が一緒ならヒッチハイクの人を乗せることになっています。私有車と公用車はナンバーの色でわかるようになっています。

公共交通網が不足しているところをこんなシステムで補っていました。ちなみに治安も良くて、女子学生でも長期休みではヒッチハイクでの旅行を勧められているそうです。ついでに犯罪の話ではスリや窃盗などの小さい犯罪はあるけどサイコ的な犯罪はないとガイドさんが言っていました。（世の中を恨んで復讐してやるという人はいなそうです）

街の人と話す機会があった時聞いた話では、町内で病気の人が出た時は車を持っている人がすぐに乗せて病院に連れていくとのことでした。

私たちがキューバから学ぶことは

医療体制はよく考えられて、予算や機材が限られている中で予防と啓蒙を重視しています。住民の身近にある診療所、設備と体制の充実した重装診療所、一般病院、専門病院が地域で整えられています。医療費は無料で、薬は極めて安い価格です。医学校は23あり、卒業生は年間2,300人。（日本は約9,0

00人）キューバの人口は1,200万人で日本の10分の1です。医師数の充実具合がわかると思います。

さらに医療による国際貢献に力を入れていて、世界のどこでも災害が起こればキューバの医療支援隊が真っ先に駆けつけています。開発途上国にも恒常的にたくさんの医師などを送っています。南米の患者を定期的に受け入れて白内障の手術をして目が見えるようにして返す事業も行っています。ラテンアメリカ医学校を作り世界中の若者を受け入れて医師に育ててその国に送り返しています。貧しくても優秀な子弟が地域から推薦されてくるので、また高価な医療機械がなくても行える医療を学んで帰るので地域に根付いて仕事をするそうです。（開発途上国でお金持ちの子弟が先進国に留学する場合、自分の収入や出世を考えて帰国しないことも多く、学んだ医療が高価な機器がないとできないので地元では役に立たないことがよくあるそうです。）

この医療貢献によりキューバは開発途上国から信頼され、強い支持を受けています。医療派遣で得られる人件費は国の収入にも貢献しています。

国全体が貧しくても国民に住まい、仕事、医療、教育を保証して、さらに医療支援の国際貢献で世界中から感謝されているキューバから私たちが学ぶことがたくさんあると思いました。ある人はキューバは政府が腐敗していない数少ない国だと言っていました。それに比べて・・・

写真はハバナの街の歩道の縁石？海岸の岩にあった大砲の玉です。大砲も逆さに歩道の境界に刺してあります。兵器も最後はこんな風には役に立つのかな！

